

## 「川崎市北部 多摩区・麻生区の町名の移り変わり」

### 町歩き「多摩市境の黒川・はるひ野」

2018年2月3日・17日

小田急多摩線はるひ野駅集合 1時30分開始

主催：川崎市 報告者：日本地名研究所 菊地恒雄

#### 1、小田急多摩線 はるひ野駅

小田急多摩線黒川駅と京王相模原線若葉台駅は昭和49年(1974)に開業した。ともに多摩ニュータウン建設に合わせたものであるが、同時に沿線の開発も意図したものであった。黒川駅周辺に企業を誘致して、最先端の研究を主体とする工業団地(マイコンシティ)が計画され、南黒川という町名が誕生した。

小田急多摩線はるひ野駅は平成16年(2004)に開業した。黒川駅ができてから30年ぶりの新駅である。

#### 2、はるひ野1～5丁目

はるひ野の町は平成18年に麻生区はるひ野1丁目～5丁目として誕生した。ひらがなと漢字を合わせた表記は、川崎市域では初めての住居表記となる。住民の中には、「黒川はるひ野」にすべきだという意見も強くあったと聞く。

黒川の字谷ツ、柳ノ町の全域と宮添、海道の一部からなっている。

#### 3、黒川谷ツ公園

字谷ツの湿地帯を中心に保存され、通称地名のロウバというところで、奥深くが傾斜面になっているのが特徴である。自然保護活動地域に指定され、開放日が設定されていて、その指導のもとで利用することができる。

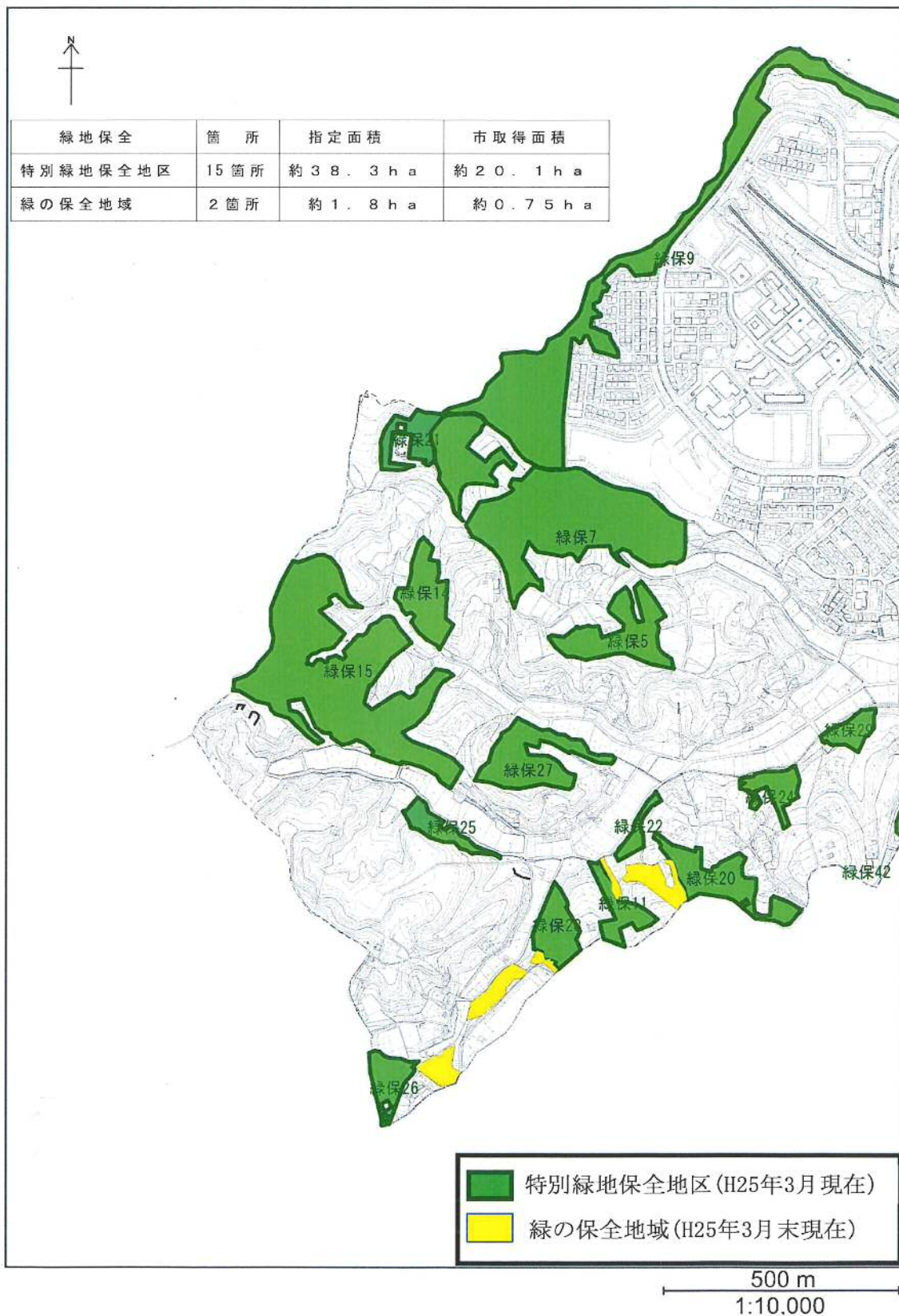
ちょうど小田急多摩線と京王相模原線に挟まれた地域に公園がある。

#### 4、黒川よこみね緑地(よこやま道)

通称よこみねと呼ばれる、多摩市との境にある緑地で、特別緑地保全地区に指定されている。多摩丘陵は一般に「多摩の横山」として親しまれ、昔から和歌に詠まれるなど各所に横山の名称が残る。ここもその一つで、多摩市では「よこやま道」として、多摩ニュータウンの境界に位置するこの場所を公園として保存するとともに、遺称地として案内板を設置するなどしている。府中に貫ける、古道の武蔵路(古東海道)・鎌倉道としての役割があったと考えられている。

黒川地区緑地保全状況図

資料 4



## 5、よこみね池

よこみね特別緑地保全地区内にある湿地帯で、開発前は谷戸の一番奥に位置した谷戸頭にあたり、この山の斜面から湧出した水が棚田を構成していた。現在も保護団体が管理していて、湧水池や水路など湿地の動植物の保存活動を続けている。

## 6、黒川海道特別緑地保全地区(黒川瓜生道)

はるひ野 3 丁目と黒川字海道の境にある道で、海道は街道と同じ意味で、黒川から現多摩市の貝取字瓜生にぬける道沿いに位置づいている。

## 7、汁守神社

字宮添にある。黒川 1 番地はここから始まっている。まさに、宮(汁守神社)から黒川が始まっているという意味で宮添といった。

現在の祭神は保食神(ウケモチノカミ)とされ、汁守の意味からも食べ物の神とされる。隣村の町田市真光寺に飯守神社があるなど、鶴川街道との関連性も考えられる。一説に、昔、府中の大国魂神社の食事に関係したともいわれる。

## 8、黒川上営農団地

川崎市では市街化調整区域の中に、農業振興地域を指定した。黒川上営農団地、黒川東営農団地、岡上営農団地、早野営農団地の四か所でいずれも麻生区にある。

昭和 46 年(1971)に上黒川地区が農業振興地域に指定され、昭和 53 年(1978)に土地改良総合整備事業が始まって、圃場整備や温室など整備が行われた。

字広町、西谷、海道、明坪が整備され、現在も水田や畑作が盛んに行われている。

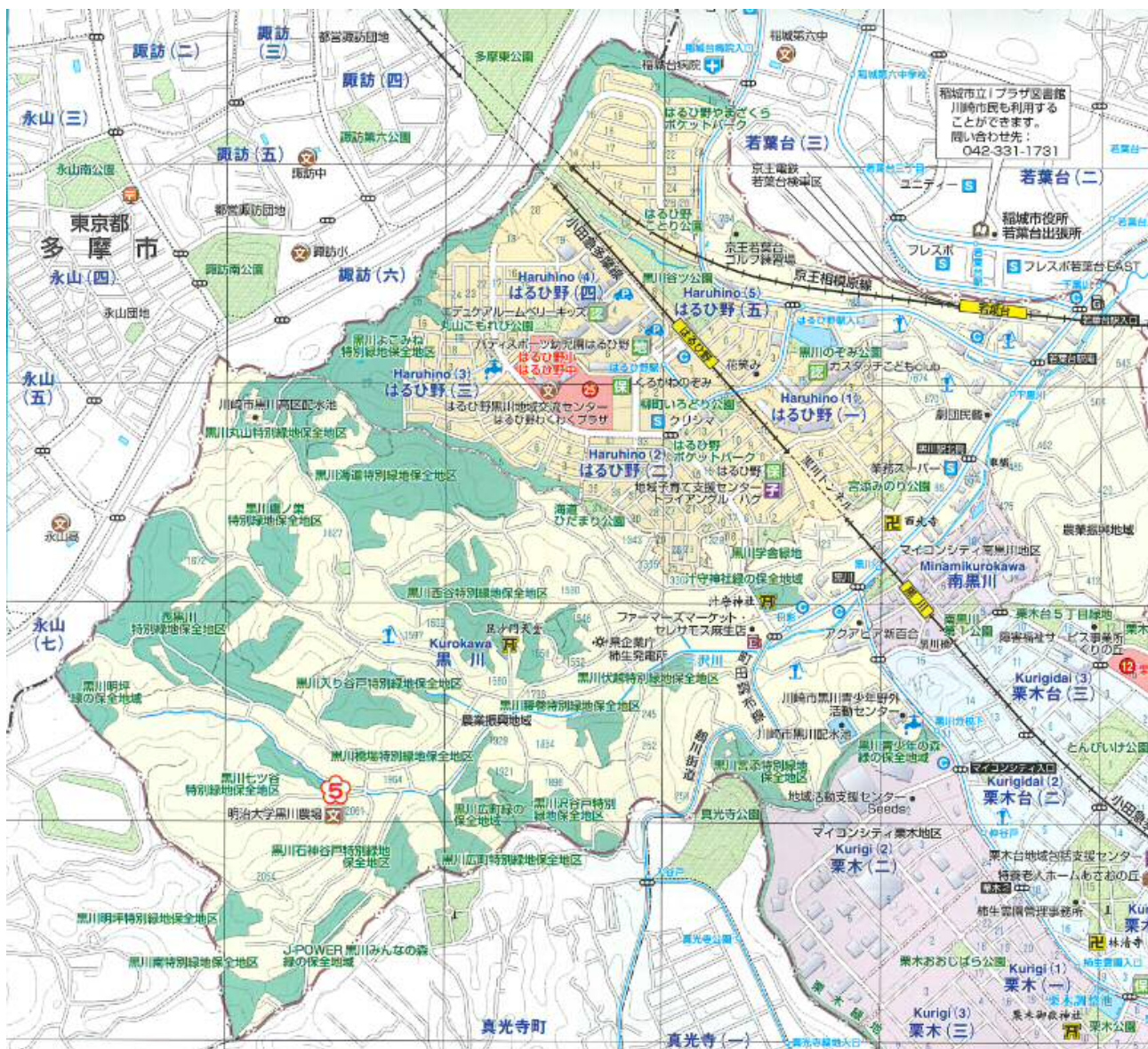
明坪には、明治大学黒川農場があり、地域とのコラボが行われている。

## 9、毘沙門大堂

ここに新義真言宗多摩郡坂浜村高勝寺門徒寺の黒仙(川)山金剛寺があった。明治初年に廃寺となり、鐘と本尊は坂浜の高勝寺に移された。跡地に毘沙門堂が残され、黒川上地区の人々によって護られている。

この毘沙門堂の近くが三叉になっており、この場所で黒川地区のドンド焼きが行われていた。現在は近くの明治大学黒川農場で実施している。





## 10、ファーマーズマーケット・セレスモス麻生店

JA セレサ川崎が 2008 年(平成 20)4 月 26 日に開店した直営ファーマーズマーケット・セレスモス(大型農産物直売所)。セレスモスは古代ギリシャ語「セルスモス(収穫)」と「JA セレサ」を組み合わせた造語。宮前店が 2015 年(平成 27)にオープンした。

もともと、黒川には有志の農業生産者が中心になって「黒川農産物直売所」があり、一日に 250 人から 300 人もの固定客に対しての販売実績をもっていた。農業振興地域として今後も農業を維持していく観点から、JA セレサ川崎と黒川の生産者、土地所有者との連携によって、実現した。

開設後は来場者の順調な伸びを記録し、毎年セレスモス出荷者大会を開くなどして、売上を伸ばすだけでなく、新鮮・安全・安心なかわさきの農産物を提供するように取り組んでいる。そのような中、2012 年(平成 25)4 月に明治大学黒川農場が開設され、セレスモスと明大黒川農場のコラボレーションによる、新しい取り組みが実現し、販売や技術交流などが進められている。